



第2展示室展示風景



Shoen Uemura

上村松園 (うえむら しょうえん)

明治8年(1875)～昭和24年(1949)

京都に生まれる。12歳で京都府画学校に入学。鈴木松年、幸野楳嶺、竹内栖鳳に師事。歴史・故事や京都の風俗を描いた作品で早くから各展で受賞を重ねる。第1回文展より出品。官展を中心に活躍し、謡曲に取材した格調高い女性像や気品ある市井の女性を描いて人物画に新境地を拓いた。昭和23年、女性として初の文化勲章を受章。



Shoko Uemura

上村松篁 (うえむら しょうこう)

明治35年(1902)～平成13年(2001)

京都に生まれる。母は上村松園。京都市立絵画専門学校に学び、西山翠嶺に師事。在学中より帝展に入選、第9回展で特選。官展で活躍するが戦後在野団体「創造美術」の結成に参加し、新制作協会、創画会を通し中心的画家として画業を展開。自然への畏敬の念と深い愛情に満ちた花鳥画で京都画壇に大きな足跡を残した。昭和59年文化勲章を受章。



Atsushi Uemura

上村淳之 (うえむら あつし)

昭和8年(1933)～

上村松篁の長男として京都に生まれる。京都市立美術大学に学ぶ。在学中より新制作協会展に入選、以後同展及び創画展を中心に作品を発表する。東洋独自の空間表現を模索しながら花鳥画の新しい展開を求め研鑽を重ねている。平成25年文化功労者の顕彰を受ける。日本芸術院会員。京都市立芸術大学名誉教授。京都市学校歴史博物館館長、公益財団法人松柏美術館館長。



エントランス

松柏美術館

松柏美術館は、上村松篁・淳之両画伯からの作品の寄贈と近畿日本鉄道株式会社からの基金出捐により1994年3月に開館致しました。松園・松篁・淳之三代にわたる本画、下絵、素描等の美術資料の収集と保管、展示を通じ、上村家三代の画業を紹介しています。また特別展や公募展、美術講演会などの開催を通して、日本画の普及、作家の育成を目指し、常に日本画のあるべき一面を示唆する発信基地となるよう願っております。

名称の由来

奈良市学園前の閑静な住宅地に所在する当館は、故佐伯勇近畿日本鉄道株式会社名誉会長の旧邸敷地内に建築された近代的な美術館と和風家屋の旧佐伯邸から構成されています。大淵池に面した敷地内には、四季折々に美しく趣きを変える自然豊かな庭園が広がっています。館名の「松」は、松園・松篁の両画伯の名前と庭の美しい百数十本の松林に、「伯」は、画伯の伯と佐伯の伯、また旧邸内にある茶室の号「伯泉亭」に由来するもので、常磐木である「松柏」にも通じるようにとの意味がこめられています。

松柏美術館友の会 ご案内

松柏美術館友の会は会員相互の親睦を深めて頂く為に発足致しました。特典は、会員証による無料入館、展覧会・美術館行事のご案内、旧佐伯邸喫茶處のお茶券進呈等です。入会申込み、お問い合わせは、友の会係までお申し出下さい。